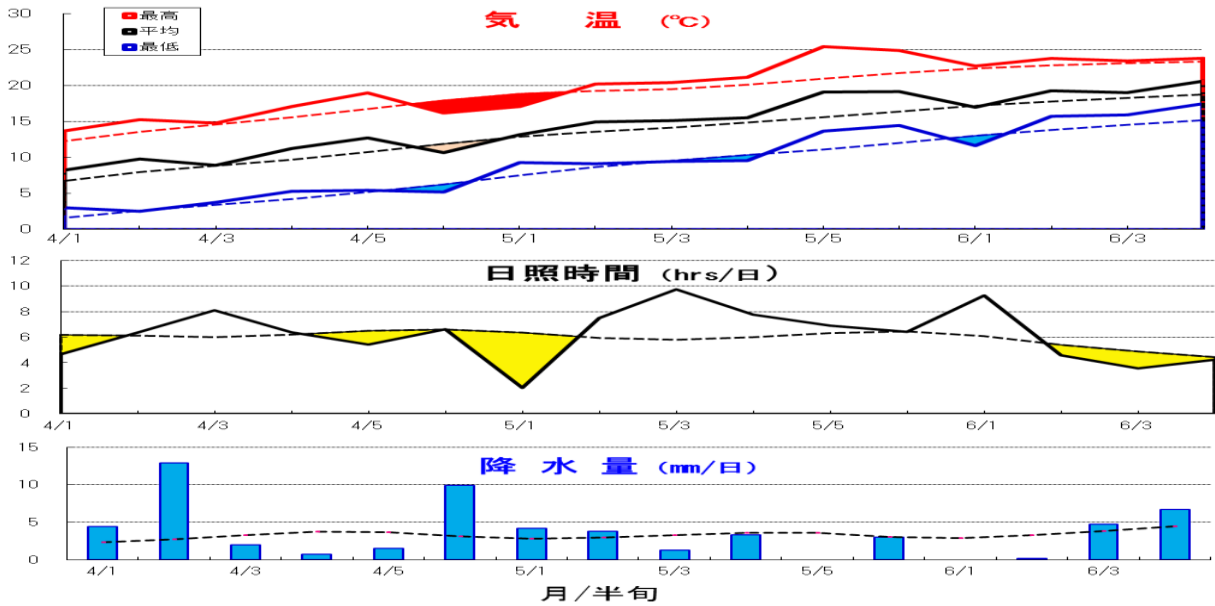


～好天続きで分けつ旺盛，生育は平年より2～3日進んでいる。～

1 気象経過



- ・5月は高温に経過し，6月も高温～並の気温となって，生育期間を通して高温傾向となっている。
- ・日照時間は，5月1半旬～6月2半旬まで多照で，6月2半旬は並～やや少照に経過している。
- ・梅雨入りは，6月13日頃（平年差+1日，前年差-13日）と発表された。5月下旬から6月2半旬までの降水量は，少なく，その後平年並みとなっている。

2 生育状況

[6月10日現在]

- ・草丈は29.0cm（平年比102%），1㎡当たりの茎数は235本（平年比121%），葉緑素計(GM)値は39.4（平年差+0.8）でやや濃い。
- ・水稻の生育は概ね順調で，葉数（平年差+0.3枚）から見ると平年に比べて2～3日程度進んでいると思われる。

表－1 品種別生育状況(6月10日現在，県生育調査圃)

県全体												
県全体	草丈			茎数			葉数			葉緑素計(GM)値		
	本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本/㎡)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (枚)	前年差 (枚)	平年差 (枚)	本年	前年差	平年差
	29.0	105	102	235	117	121	7.0	0.1	0.3	39.4	1.8	0.8
品種別												
品種別	草丈			茎数			葉数			葉緑素計(GM)値		
	本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本/㎡)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (枚)	前年差 (枚)	平年差 (枚)	本年	前年差	平年差
ひとめぼれ	29.2	106	105	229	104	110	7.0	0.2	0.3	39.3	0.2	0.0
ササニシキ	27.9	103	102	262	120	133	7.0	0.4	0.6	39.6	3.4	3.0

〔6月20日現在〕

- ・ 水稻の生育は概ね順調であり、葉数（平年差+0.4枚）から見ると平年に比べて2～3日程度進んでいると思われる。
- ・ 草丈は38.8 cm(平年比 106%)とやや長く、1 m²当たり茎数は406本(平年比 105%)でやや多く、葉色は45.4 (+2.4)と依然やや濃かった。

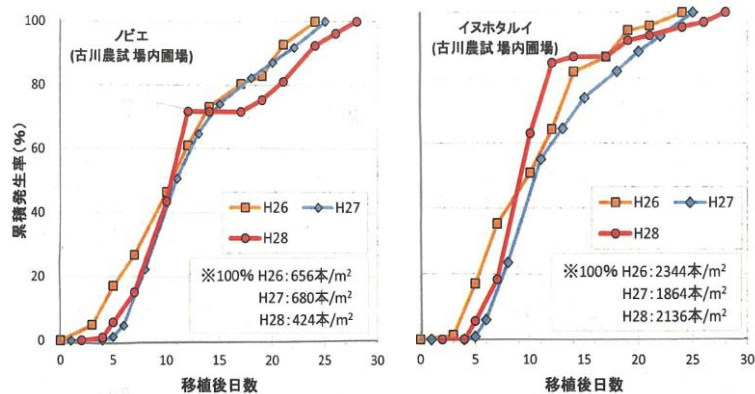
表－2 品種別生育状況(6月20日現在, 県生育調査圃)

県全体												
県全体	草 丈			茎 数			葉 数			葉緑素計(GM)値		
	本 年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (本/m ²)	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (枚)	前年差 (枚)	平年差 (枚)	本 年	前年差	平年差
	38.8	108	106	406	98	105	8.7	0.2	0.4	45.4	2.3	3.1

品種別												
品種別	草 丈			茎 数			葉 数			葉緑素計(GM)値		
	本 年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (本/m ²)	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (枚)	前年差 (枚)	平年差 (枚)	本 年	前年差	平年差
ひとめぼれ	39.0	108	107	386	95	101	8.7	0.2	0.5	45.4	1.8	2.7
ササニシキ	37.5	108	107	466	112	121	8.6	0.5	0.5	45.1	3.7	4.2

3 本年の雑草発生状況

- ・ ノビエとイヌホタルイの発生はじめは、移植後（移植日5月13日）5日であった。
- ・ 累積発生本数は、ノビエで移植後11日で70%、イヌホタルイで85%発生し、過去2ヶ年より早く、5月の高温を反映して、一気に発生本数が増加した。
- ・ その後、発生は一時停滞し、気温の上昇とともに再度発生が確認されている。



4 今後の管理

(1) いもち病に注意

- ・ 病害虫防除所の予察情報5号によると、残苗の放置率は低いですが、今後注意が必要である。
- ・ いもちの発病には、平均気温が20～25℃、曇りや雨の日が多いことが好適であり、向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は平年並または多いと予報されている。
- ・ 例年、補植用残苗から初発が見られるので、圃場を見回り病発生源となる残苗を処分する。

(2) 害虫の発生と防除

① コバネイナゴ

- ・ 本田への侵入は3～4齢幼虫が主となるが、雑草の幼虫は若齢が主体であり、発育の進展は平

年並と考えられる（6月第4半旬現在）。

- ・前年の発生量が多かったことから、越冬量は多いと推測される



病害虫名	発生時期 (侵入盛期)	発生量
コバネイナゴ	やや早い (7月第2半旬)	やや多

② アカスジカスミカメ

- ・畦畔や牧草地にあるイタリアンライグラス等に既にカメムシが見られるので、草刈等を徹底する。（白い紙を持ち手で雑草等をたたくと、紙にカメムシが落ち確認できる。）
- ・イヌホタルイが年々増加し、斑点米カメムシの原因となるので雑草の発生に注意が必要である。



(3) 水管理

- ・気温が高めに経過していることから、ガスの発生がみられるので間断灌水や中耕等により、ガス抜きに努める。
- ・分けつが旺盛で目標茎数（500本/m²程度）に達した圃場が多く、無効分けつ抑制・根の健全化・倒伏防止等のため、溝切や早期の中干しを実施する。

(4) 直播

- ・高温傾向を反映し、出芽苗立率は良好で、圃場により苗立数が多すぎる圃場が見受けられる。
- ・そのため、必要茎数を確保したら、早めの中干しや深水管理等による茎数抑制を図ることも必要である。
- ・雑草の発生本数が、急激に増加したため、除草剤の散布時期を見極め遅れないように処理する。
- ・倒伏軽減のため、より強い中干しの徹底や溝切りを実施する。



〔直播検討会の様子とヒエ枯死状況〕